

教材名 シャぼんだま	授業名 図工
対象学部 小学部	
写真（教材、使用場面など）	
	
↑作業中	↑裏返すと
<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆染め紙をはさみで切ったり、カバーフィルムの上に乗せて貼ったりすることができる。 ☆空いている部分を探して貼ることができる。 ☆“ぼく（わたし）もやりたい”等の気持ちを身振りや発声、言葉で表現する。 	
<p>工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合わせて、はさみができる児童には、染め紙をあらかじめ長いテープ状に切っておき、線を書いて切り落とす部分がわかるようにした。はさみができない児童に対しては、握りばさみ（指を穴に通さない、手のひら全体で握り混むタイプ）を準備して切る経験を積ませると共に、染め紙に切り込みを入れて、一人でちぎることができるようにした。 ・カバーフィルムの上に丸く切り抜いた型紙を先に載せることで、染め紙を載せて貼る部分が視覚的にわかりやすくなった。また、粘着性のあるカバーフィルムを使うことで、貼ることができたかどうか自分でわかるようにした。 ・光で透ける感じを楽しめるように、作品を窓枠に掲示した。 ・「シャぼんだま」の授業に先立って、透明落書き板に障子紙を貼り付けて、スプレーを使って染める「えのぐあそび」に2時間取り組んだ。透明落書き板を挟んで、スプレーに取り組む児童と、座って待つ児童の双方が障子紙の染まる様子を見て楽しめるようにした。そのときに染めた障子紙を使って、「シャぼんだま」を制作した。 	
<p>活用方法及び児童生徒の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はさみを使える児童は、線を意識しながら2～3回切りで切り落としていた。握りばさみを使用する児童は、先に少しだけはさみに取り組んでから、ちぎる活動にたっぴりと取り組むことができた。 ・粘着性のカバーフィルムを使うことで、最初は型紙の上に乗せたり重ねて載せたりもしていたが、それでは貼り付かないとわかり、貼っていない部分を目で探したり、指先で確かめたりしながら、どの児童も貼る活動をすることができた。 ・染め紙を貼った上からカバーフィルムを載せて固定したので、作品を裏返して確認したり、宙で光りに透かしたりして、パステル調の染め紙を使った完成した作品を見て楽しんでいた。 	
<p>その他（材料、作成費用、購入先など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障子紙（4枚分、必要な長さに切って使用）：400円弱。 ・カバーフィルム（35cm×1.5m）：618円。 ・色画用紙（紺、10枚入り）：108円。 	